

◆食べ物を与えないでください

食べ物を与えないでください。人への警戒心が低下し、人間が食べ物の供給源だと学習したイノシシを育てることにつながります。

人間にとってはゴミであっても、イノシシのエサになるものがたくさんあります。

◆ウリボウを見かけても、近づいてはいけません

ウリボウ(イノシシの子)がいる場合、近くに母イノシシがいる可能性が高いので、近づいたり追いかけたりしてはいけません。

◆犬の散歩の際に

犬と散歩する際は、犬がイノシシを追いかける可能性がありますので、リード(手綱)を放さないよう、しっかりと持ちましょう。

イノシシの生態と行動

◆成獣の体重は60～100kg程度だが、個体差が大きく100kgを超える個体もいます。オスの方がメスよりも大きいのが一般的です。

◆体毛色は黒褐色から赤褐色であり、生後半年～1年位までの幼獣には白または薄茶の縞模様が入り、ウリボウと呼ばれます。

◆性格は基本的に臆病で警戒心が強いが、その場所が安全であることを覚えると行動が大胆になります。

◆昼行性だが、人の生活圏では夜間に行動します。

◆畑の作物を食べ栄養状態が良いと、満2歳で初産を迎え、年1回繁殖し、平均4～5頭出産と多産で、その内の約半分が成獣になります。

◆寿命は約6～10歳で、5歳以上になる個体は多くありません。

◆生息地は藪や茂みなど、身を隠せる場所です。

◆特定の縄張りを持たず、複数の群れが同一地域を利用することもあります。

◆移動距離はメスよりオスの方が長く、イノシシが生息域を拡大する初期には成獣オスがよく出没します。

◆成獣メスや幼獣の出没はイノシシの生息域の拡大の指標です。

◆日中の目撃増加はイノシシの警戒心低下の指標です。

◆行動域は0.3～0.5km程度ですが、成長したオスの仔が母親から離れる際や、人間の圧力がない状況下では行動域が1～2.5kmと広域に及ぶこともあります。また、季節によっても行動域が変化します。

◆群馬県内における生息頭数は、約2.4万頭(平成30年度)と推定されています。